

県民の森 植物紹介 (46) シナノキ (シナノキ科)

北日本でよく見られる木です。このあたりでは「マンダの木」と言われ親しまれています。樹皮がきれいに剥がれ、丈夫で耐久性があるため、古くから編み物にしてロープにしたり、衣類として利用されてきました。名の由来は諸説ありますが、アイヌ語の「シナ」という言葉に「縛る」という意味があることも、そのひとつです。材は柔らかくて加工しやすいことから、木彫や楽器などに用いられ、アイヌの熊の木彫りもこの木で作られました。

夏、とても甘い香りのする白い優雅な花が咲きます。ひとつひとつの花が線香花火のように広がり、プロペラのような苞葉がついている個性的で美しい花です。蜜源植物で、良質のハチミツが採取されます。花期は虫たちに大人気で、強い香りのなか、多くの虫の羽音で木全体が鳴り響く様子は壮観です。

秋に熟す実は5mmくらいの球形。最初は緑の小粒で、しだいに灰褐色の短毛を増やしていきます。熟すと、花の根元にあったプロペラのような苞葉がくっついたまま自然落下します。風に舞って遠くまで飛んでいけるよう、苞葉がグライダーの役割を担っているのです。晩秋や雪の時期、地面をよく見てあるいていると、ときどき落ちた実が見つかります。どこから飛んできたのか探してみるのも楽しみのひとつです。

園内随所で見られます。七滝登山道にあるシナノキは、傷を受けて巻き込んだ箇所が、口のように大きな穴になっていて「顔の木」と呼ばれています。冬は穴の中に登山者が入れ替わり立ち替わり雪だるまを置いて、愛されている木です。



七滝登山道のシナノキ 2021年1月31日



冬芽 2020年4月12日



新葉 2020年5月22日



花 2020年7月13日



全体 2020年7月24日



若い実 2020年9月26日



落ちた実 2020年11月10日